

報 告

第 104 回 (昭和 57 年秋季) 講演大会記事

第 104 回講演大会は昭和 57 年 9 月 27 日から 29 日まで北海道大学教養部ならびに工学部で開催された。

開会式

開会式は木下亨本会専務理事司会のもと、北海道大学教養部で午前 9 時より開催され、山本全作大会実行委員長 (新日本製鉄室蘭製鉄所々長) 挨拶で始まり、つづいて松下幸雄会長の挨拶が行われた。

(松下会長挨拶)

本大会が北海道地区で開催されますのは、昭和五十年以来七年振りであり大会の準備に当たられた山本全作実行委員長をはじめ、実行委員各位に対し厚く御礼申し上げます。

本大会の発表件数は 879 という記録的な数字で、これは前回の当地区大会に比べ、実に 50% 近い増加である。その理由を考えると鉄鋼の学術・技術水準の向上、併せて会員諸兄の士気高揚が背景にあると確信している。また、鉄鋼業を取巻く諸般の情勢を反映し、在来の工程にまたがる境界領域や工程の連続化、あるいは周辺技術、鋼の高純度化指向、その他新技術開発などの発表が数多く見られる。この講演大会は会員諸兄即ち、わが国の鉄鋼業を技術面で支える方々が一堂に会し、日頃の研鑽の結果を発表し、また討論し合う場であり、日本鉄鋼協会事業の中で最も重要な行事の一つである。十分討論をつくして一層活躍されますよう切望する。

表彰式

開会式につづいて、浅田賞、ヘンダーソン賞、三島賞、山岡賞の表彰式が行われた。山岡賞は元会長故山岡武氏が昭和 56 年 6 月卒寿を迎えられた機会に山岡氏卒寿記念募金会から本会に贈呈された資金によつて新設され、鉄鋼関係共同研究で優れた成果を挙げたものに贈呈されるもので、今回はその第一回の授与であつた。受賞者は次のとおりである。

浅田賞 (財)石炭技術研究所常勤顧問 山村禮次郎君

「石炭利用技術の研究開発とその普及」

浅田賞 久保田鉄工(株)専務取締役技術開発研究所長 本田順太郎君

「鉄鋼用鋳物製品の研究と製造技術の開発」

ヘンダーソン賞 新日本製鉄(株) 松田昭一君、川島善樹君、関口昭一君、岡本正幸君

「低炭素低合金鋼二相域圧延材のセパレーションの発生機構」(論文)

三島賞 新東工業(株)会長 永井嘉吉君

(株)アキタ社長 久保好政君

(株)アキタ研究所長 中田邦位君

「新製造技術プロセスの発明と企業化」

山岡賞 日本鉄鋼協会共同研究会鉄鋼分析部会鋼中非金属介在物分科会、日本鉄鋼協会鉄鋼標準試料委員会

「鋼中炭化物抽出分離定量法の標準化ならびに同標準試料の調製法に関する研究と普及」

山岡賞 原子力製鉄技術研究組合トータスシステム研究員グループ

「原子力製鉄プラントの概念設計とその設計・評価手法の開発」

特別講演会

表彰式につづいて浅田賞受賞記念講演ならびに湯川記念講演が次のとおり行われた。

浅田賞受賞記念特別講演

1. 「鉄鋼用圧延ロールおよび鋼塊鋳型の製造法に関する革新」 本田順太郎君

2. 石炭利用拡大に伴う技術展開 山村禮次郎君

湯川記念特別講演

「The Tendency of Metallurgical Science Technology in France-The Functions of IRSID and ATS」

Executive Director, Association Technique de la Sidérurgie Française BERNARD TRENTINI

講演大会

講演大会は製鉄関係 179 題、製鋼関係 195 題、加工関係 183 題、材料関係 271 題、分析関係 16 題、計 844 の講演会が 19 会場に分かれ、講演、討論が行われた。また上記講演の他次のテーマによる討論会ならびに委員会報告講演会が開催された。

(討論会)

1) 高炉内の珪素の挙動 座長徳田昌則、副座長榎谷暢男

2) 連鋳鋳片の品質と鋼の高温における力学的特性 座長森 勉

3) 継目無鋼管の製造技術の動向 座長高井岩男

4) 鋼の腐食の確率論的評価 座長増子 昇

5) 制御圧延・制御冷却をめぐる諸問題 座長田中智夫

(委員会報告講演会)

1) スラッグの有効利用に関する基礎研究部会報告講演会

「鉄鋼スラッグの性質と利用」

2) 高級ラインパイプ共同研究委員会報告講演会

「パイプラインの延性破壊停止性能」

懇親会

9 月 27 日午後 6 時より札幌グランドホテルで金属学会と合同で開催された。北海道大学高橋忠義教授司会のもと山本実行委員長、松下本会会長、三本木金属学会会長、有江北海道大学々長の挨拶の後、両会を代表して川口大会副実行委員長 (日本製鉄所常務取締役) の乾杯の音頭で始められた。280 名の参加者を迎え、各地から参集した会員間で歓談がくりひろげられた。午後 7 時 30 分まで盛況を呈し、最後に竹山大会副実行委員長 (北海道大学教授) の挨拶で終了した。

ジュニアパーティー

9 月 28 日午後 6 時 20 分より北海道大学内中央食堂で開催された。各地より参加した 240 人の若手技術者、研究者を中心になごやかに懇談がなされた。

(以下 2606 ページへつづく)